

## 2004年11月の大気大循環と世界の天候

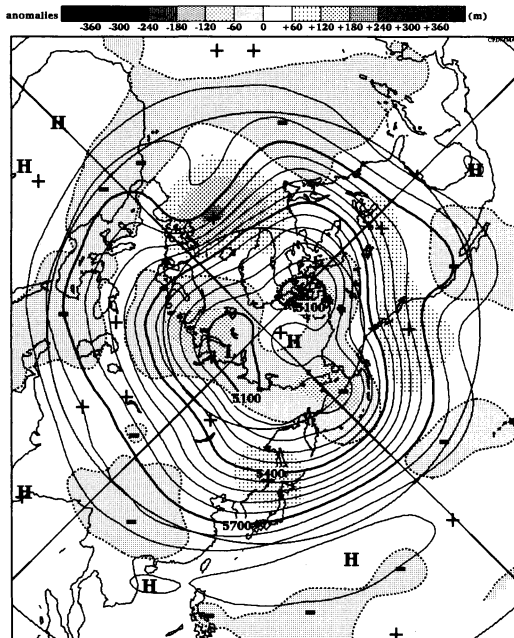
### 大気大循環

北半球500 hPa 高度では、60°N 以北は、バレンツ海付近とベーリング海付近を中心とした負偏差域に覆われたところが多かった。中緯度の極東域では、沿海州を中心に+60 m 以上の正偏差域が分布した。また、太平洋東部から北米大陸の中緯度にかけては帯状の正偏差域が見られ、大西洋には顕著な正偏差が見られた。

熱帯の対流活動は、フィリピン南部からベンガル湾、インドネシアなどの広い範囲で平年より不活発となった。一方、太平洋西部やインド洋、太平洋の ITCZ (赤道収束帯) では平年よりも活発であった。SPCZ (南太平洋収束帯) は平年よりも東寄りでの活発であった。

850 hPa 流線関数および風ベクトルでは、ベンガル湾から東南アジアにかけて対流活動が不活発なことと対応し、ベンガル湾付近を中心に高気圧性循環偏差が見られ、インド洋中部から南シナ海にかけて東風偏差となった。一方、大西洋西部では対流活動が活発なことと対応し、低気圧性循環偏差が見られた。太平洋赤道域の東西風はほぼ平年並であった。

ダーウィンの気圧偏差は+0.5 hPa、タヒチの気圧偏差は-0.8 hPa となり、SOI (南方振動指数) は-0.7 で、6 か月連続の負偏差となった。



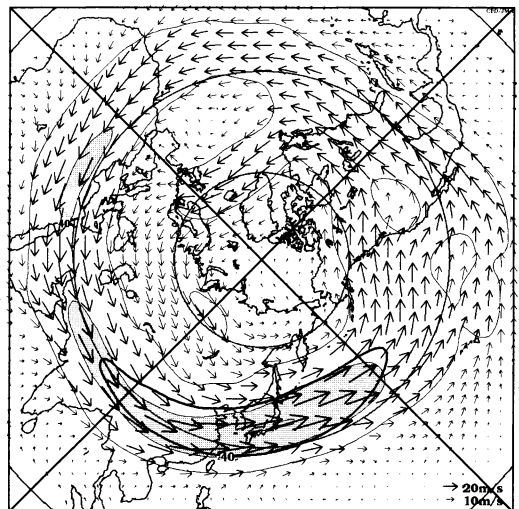
2004年11月の北半球月平均 500 hPa 高度および平年偏差

等値線間隔は 60 m, 偏差パターン間隔は 60 m, 平年値は1979~1993年の ECMWF15年再解析データによる。

### 世界の天候

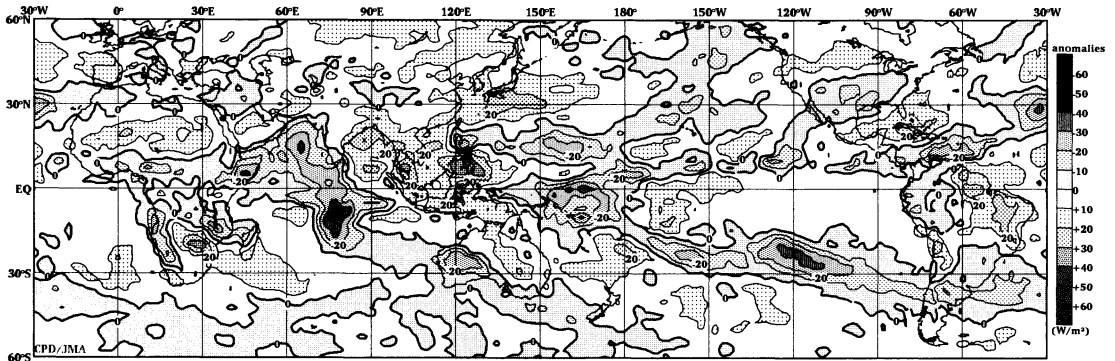
- ① 日本付近の高温
- ② 中国東北区から東シベリアの多雨
- ③ モンゴル東部の少雨
- ④ 西シベリアの多雨
- ⑤ 中央アジアの多雨
- ⑥ トルコからヨーロッパ中部の多雨  
ドイツやオーストリアなどヨーロッパ中部やトルコでは、暴風雪や豪雨により、交通事故などで十数名が死亡したと報じられた。
- ⑦ ヨーロッパ西部の少雨
- ⑧ アルジェリアの多雨  
アルジェリアでは嵐の通過により数名が死亡、約20人が行方不明と伝えられた。
- ⑨ アフリカ西部の多雨
- ⑩ アフリカ南部の高温
- ⑪ 米国北西部の少雨
- ⑫ 米国南部の多雨
- ⑬ カリブ海周辺の少雨
- ⑭ 南米北部の高温・少雨
- ⑮ インドシナ半島からミクロネシアの高温

(気象庁気候・海洋気象部気候情報課 中村理恵)

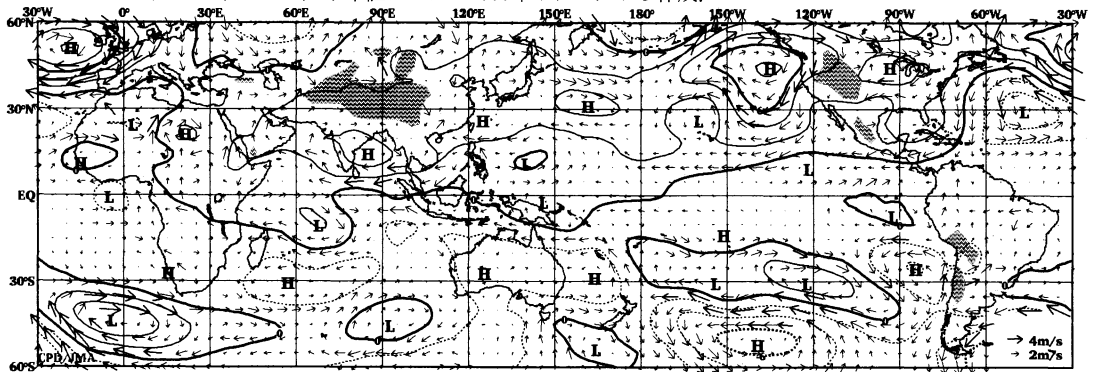


2004年11月の北半球月平均 200 hPa 風速および風ベクトル

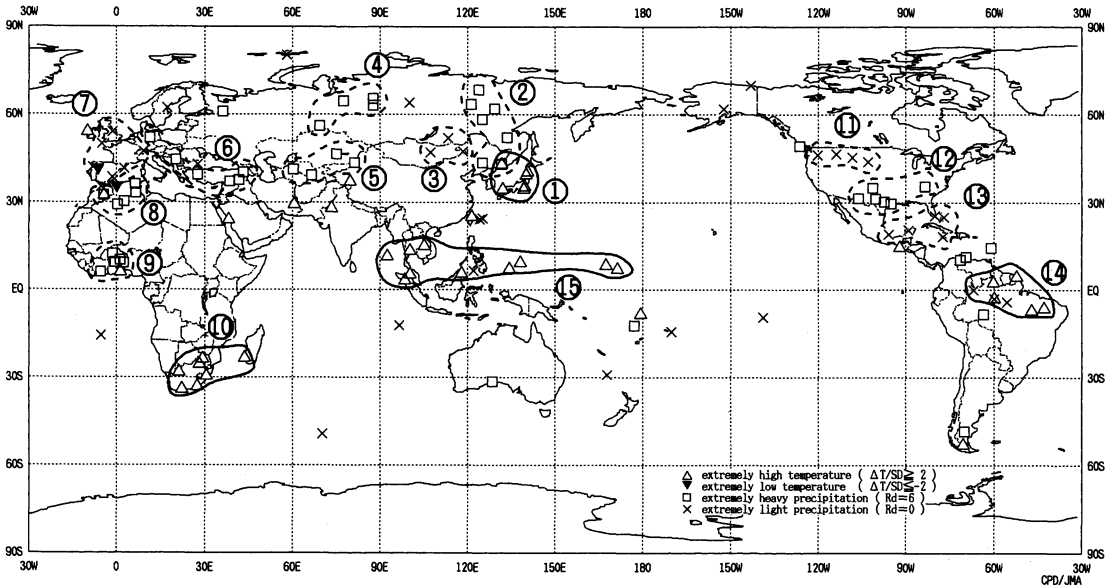
等値線間隔は 20 m/s, 陰影部は 40 m/s 以上, 太実線で囲まれた領域は平年の 40 m/s 以上の領域を示す。平年値は1979~1993年の ECMWF15年再解析データによる。



2004年11月の月平均外向き長波放射量年偏差  
 等値線間隔は 10 W/m<sup>2</sup>で、値が小さいほど対流活動が活発であったと推測される。元データは CPC/NCEP/NOAA、年偏差は1979~2000年のデータから作成。



2004年11月の月平均 850 hPa 流線関数年偏差及び風年偏差ベクトル  
 流線関数の偏差の等値線間隔は  $2 \times 10^6 \text{ m}^2/\text{s}$ 、年偏差は1979~1993年の ECMWF15年再解析データによる。



2004年11月の世界の異常天候分布図 △異常高温 ▼異常低温 □異常多雨 ×異常少雨  
 異常高温・低温は標準偏差の2倍以上、異常多雨・少雨は降水5分位値が6および0。図中の番号は本文中の番号と対応している。